

## 施策 5 教育の質を高める環境の充実

	【項目】 研修目標達成度（5段階評価）	【説明】 経験者研修及び専門研修ごとの研修目標達成度の平均（5段階評価）						
指標 1	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
	—	4.1	—	4.4				4.5
	担当課評価							
	【担当課】 学校管理課 教育センター							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは順調です。</li> <li>・経験段階に応じた研修や、コロナ禍におけるオンライン研修（同時双方向型・オンデマンド型）等の効果的な実施、教育センターでの対面・集合型研修における学習者用コンピュータの効果的な活用により、目標達成度は上昇しています。</li> <li>・今後も、効果的な研修の在り方について検討し、教職員の資質・能力を高めることができる研修を実施します。</li> </ul>							
	【項目】 勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合	【説明】 勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合						
指標 2	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
	%	77.7	77.2	78.2				30.0
	担当課評価							
	【担当課】 学校管理課							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは順調ではありません。</li> <li>・勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合が減少しません。</li> <li>・今後は、本市の「学校における働き方改革基本方針」を策定し、保護者や地域の方の理解を得ながら、具体的な改善策を講じていきます。</li> </ul>							
	【項目】 市立川越高等学校の生徒、保護者の満足度	【説明】 生徒、保護者への学校評価アンケートにおける「入学して（させて）よかった」と回答した割合						
指標 3	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
	%	85.7	94.9	89.0				100
	担当課評価							
	【担当課】 市立川越高等学校							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは順調です。</li> <li>・年度により実績値の変動はあるものの、満足度の実績値は現在値に比べ向上しています。</li> <li>・目標値に少しでも近づくよう、引き続き、生徒や保護者の意見を聞き、市立川越高等学校の満足度向上に努めます。</li> </ul>							
	【項目】 市立特別支援学校のセンター的機能を活用した学校の割合	【説明】 各市立小・中・高等学校（小32校、中22校、高1校）が市立特別支援学校のセンター的機能を活用した割合						
指標 4	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
			R2	R3	R4	R5	R6	
	%	—	7.2	52.7				100
	担当課評価							
	【担当課】 教育センター							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進ちよくは概ね順調です。</li> <li>・令和2年度はコロナ禍のため、例年よりかなり少なくなっていますが、令和3年度は、特別支援教育コーディネーターが今まで以上にセンター的機能を活用できるように、校内で時間割等を調整することで割合を伸ばすことができました。</li> <li>・特別支援学校からも積極的に情報を発信し、各市立小・中・高等学校とのつながりを深めながら、さらに、各校が市立特別支援学校のセンター的機能を活用できるようにします。</li> </ul>							

施策 5 教育の質を高める環境の充実		総合評価
		B
総合評価について	<p>全体として目標達成に向かって推移しています。コロナ禍においても、教職員の負担軽減を考慮しながら、教育の質を高める取組を継続していきます。</p>	
学識経験者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教員の産業医面談は希望制とあるが、何も言わずに頑張っている教員ほど、急に休みに入ってしまう傾向があるため、早めにケアができる体制作りが必要である。</li> <li>• 校務支援システムの導入等、業務の効率化が図られれば図られるほど、実は、仕事は増えていくものである。「学校の中にいない」という本来の意味での在校時間の減少に努めていただきたい。</li> <li>• 教員研修等が多いため、なるべく教員の負担にならない研修体制を整えていただきたい。</li> <li>• 市立川越高等学校と市立特別支援学校は、どちらも市として1校ずつの学校であり、教育委員会としてそれぞれの充実に力を注いでいただきたい。</li> </ul>	

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	①教職員研修の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の経験段階に応じ、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修や管理職研修などを核とした経験者研修の充実を図ります。</li> <li>・学習指導要領への対応や様々な教育課題に対応するため、教員の専門的スキルを高め、授業改善につながる専門研修の充実を図ります。</li> <li>・教育者としての使命感、責任感を持ち、指導力のある意欲的な教員を育成するための研修を充実させるとともに、服務規律を守り、倫理観の向上を図るための研修を実施します。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験者研修 15回 506名</li> <li>・専門研修 19回 301名</li> <li>・全経験者研修において教職員の不祥事防止を徹底するための研修を実施</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の「教員等の資質向上に関する指標」に基づき、教職員の経験段階に応じた研修内容を計画し、実施することにより、概ね順調に進捗しています。</li> <li>・GIGAスクール構想に伴い、学習者用コンピュータを効果的に活用した研修を実施したことで、教職員の教科等指導力に加えて、ICT活用指導力の向上につなげることができました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市の求める教職員像である「活力に満ちた教職員」の育成のために、経験段階に応じた研修内容を工夫するとともに、引き続き川越市の課題である学力向上に重点を置いた研修を実施していくことが求められます。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の経験段階に応じた「川越市教職員の目指す姿」を明確にした上で、それを実現するために研修内容や研修方法を工夫します。</li> <li>・川越市小・中学生学力向上プランの授業スタンダードをより多くの教職員に定着させるとともに、それぞれの専門的スキルを高めるために、教科等の特性に応じた研修を計画し、実施します。</li> </ul>		

細 施 策	②中堅教職員・臨時的任用教員の育成	担当課	関連指標
		学校管理課・教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手・中堅教職員の教育に対する識見を高め、資質・能力の向上を図り、学校運営の推進者となる人材を育成していきます。</li> <li>・臨時的任用教員研修において、教職員の資質向上に関する指標を基とした研修を経験年数に合わせて計画し、臨時的任用教員の授業力を育成します。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅教諭等資質向上研修 7回 38名</li> <li>・臨時的任用教員研修 8回（①全員参加3回②経験年数1～2年のみ参加5回）240名（内②は57名）</li> <li>・かわごえミドルリーダー研修 9回 14名</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅教職員に対しては、学年組織マネジメントや人事評価制度等、学校の中核的存在を育成する研修を実施しました。研修参加者について、教務主任等のミドルリーダーを担う者が増加しています。</li> <li>・臨時的任用教員に対しては、①全員参加、②経験年数1～2年のみ参加の回を設定しました。研修内容については、服務規律等については全員を対象に、教科等指導の基礎・基本等については経験年数1～2年のみを対象に実施しました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年主任や教務主任等の若年化を踏まえて、中堅教職員が学校運営の推進者となるよう研修内容を工夫する必要があります。</li> <li>・県の「教員等の資質向上に関する指標」に基づき、経験年数に応じてより効果的な研修ができるよう計画する必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅教職員に対しては、「教員等の資質向上に関する指標」の深化・中核期であることを踏まえて、研修の指導者には経験豊富な講師や大学教授等を選定し、より質の高い研修となるようにします。</li> <li>・臨時的任用教員に対しては、2年を1サイクルとして研修内容を計画し、教員としての基礎・基本が身に付けられるようにします。</li> </ul>		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	③教職員研修の効果的な実施	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の負担軽減及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面型・オンライン型の研修方法により、研修内容に適した時期で研修を実施します。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面・集合型研修 124回（全研修の60%）</li> <li>・オンライン研修（同時双方向型・オンデマンド型） 73回（全研修の35%）</li> <li>・中止 10回（全研修の5%）</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用コンピュータや電子黒板を活用したオンライン研修を導入したことで、対面・集合型研修が実施できない場合もオンライン研修に代替して実施することができました。</li> <li>・オンライン研修を①同時双方向型、②オンデマンド型と分類し、それぞれの研修の目的と内容に応じて実施しました。オンライン研修は移動（出張）を要しないため、教職員と学校の負担軽減につながりました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン研修について、研修効果を高めるための工夫を検討する必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン研修を行うにあたっては、研修効果をより高めるために、対面・集合型研修と同等のコミュニケーション（双方向）が取れるよう研修方法を工夫します。</li> <li>・研修を計画する際、①目的、②内容、③形態の順で検討することに加えて、研修形態の選択基準を設定することで、より研修効果の高い形態での研修を実施できるようにします。</li> </ul>		

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	①勤務時間を意識した働き方の推進	担当課	関連指標
		学校管理課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の働き方について見直す機会となるよう、在校時間記録システムにより把握したデータを定期的に学校へ提供し、管理職を含めた教職員の意識改革を図ります。</li> <li>・「ふれあいデー」の設定を推進します。</li> <li>・保護者や地域に対して、学校における働き方改革に関する取組を理解してもらうよう周知します。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在校時間記録システムにより把握したデータを各学校に提供 2回</li> <li>・在校時間等の客観的なデータを参考にした各学校における日課表の工夫、行事の精選、ノー残業デー等の取組</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例校長会において、在校時間記録システムによる職員の勤務状況把握、状況に応じた教職員への働きかけについて周知しています。その結果、教職員の意識も高まり、効率的な働き方ができるよう、各学校で工夫しています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状においても、学校ごとに在校時間が長い教職員が数名おり、大きく改善されるには至っていません。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長に在校時間記録システムの具体的な活用方法を周知します。</li> <li>・学校における働き方改革に関する取組について、保護者や地域の方の理解を得られるよう、周知に努めます。</li> <li>・本市における「学校における働き方改革基本方針」を策定し、教職員の働き方改革を進めます。</li> </ul>		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	②事務負担軽減への取組	担当課	関連指標
		学校管理課・教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統合型校務支援システムを活用するなど、国や県、市で求める調査報告について効率化を図れるよう検討を進めます。</li> <li>・ 学校と教育委員会とが負担軽減についてともに研究する場をつくり、働き方改革を推進します。</li> <li>・ 学習指導案や教材等を関係者で共有し、教員の教材づくり等の授業準備に掛ける時間を削減し、事務の効率化を図ります。</li> <li>・ 教育委員会からの調査・照会業務の適正化（縮減）を行い、事務負担の軽減を図ります。</li> <li>・ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、専門性を持つ多様な職員と教員が協働し、「チーム学校」としての組織体制強化を図ることで、教員一人ひとりの負担軽減を図ります。</li> <li>・ 部活動の意義や発達段階を踏まえた指導が行えるよう、外部指導者の活用を含めた地域と連携した活動を推進し、部活動顧問の負担軽減と持続可能な運営体制の構築に努めます。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校務支援システムを活用した学校からの提出物の削減（中学校における学習評定一覧）</li> <li>・ グループウェアを活用した調査等の回答方法の簡素化</li> </ul> <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立中学校において、部活動指導を補助する地域人材登録 14校27名</li> <li>・ 市立川越高等学校において、部活動外部指導者導入事業による外部指導者 4名</li> </ul>		
現状・課題	<p>現状</p> <p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校務支援システムやグループウェアを活用して、調査の簡素化、提出物の削減を図ることができました。</li> </ul> <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門性が必要な部活動において、指導準備の助言等を受けることで、部活動顧問の負担軽減が図られています。</li> </ul> <p>課題</p> <p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校務支援システムやグループウェアについて、一部の職員での活用だけではなく、より多くの職員が活用できるようにする必要があります。</li> </ul> <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動の意義を理解し、適切に指導をすることができる人材及び報酬に係る財源の確保が必要です。</li> <li>・ 多感な時期の中学生を指導するため、外部指導者と学校との連携の在り方の整理が必要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループウェアを活用した事務の簡素化に向けた方法を、学校教育部内に広めていきます。</li> <li>・ 校務支援システムを活用して、学校の事務負担軽減につながる取組を広げていきます。</li> </ul> <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国や県の動向を確認しながら、外部指導員を活用した指導体制を整えていきます。</li> </ul>		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	③悩みを抱える教職員のための支援体制づくり	担当課	関連指標
		学校管理課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックを実施し、高ストレス者が産業医と面談できる体制を整えます。</li> <li>・ストレス状況を把握できるよう、セルフチェックシステムの活用を推進します。</li> <li>・様々な問題、課題に対して、教職員一人で悩み、問題を抱え込むことのないよう、気軽に相談できる支援体制を構築します。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業医との面談希望者 3名、面談実施者 3名</li> <li>・ストレスチェック実施対象者1,510名、実施者1,339名</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業医との面談希望者すべてに対し、産業医との面談の場を設定し実施することができました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックは本人の希望により実施するものではありませんが、自身のストレス状況を把握できるよう、実施率を高める必要があります。学校においては、相談しやすい体制を構築していく必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックを実施し、産業医との面談を希望する者に対して、面談の場を設定します。</li> <li>・ストレスチェックの実施率が高まるよう、校長に対して対象職員への働きかけを促します。</li> <li>・校長会等で、相談しやすい相談体制を構築するよう周知します。</li> </ul>		

【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	①市立川越高等学校の活性化・特色化の推進	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ・オレゴン州にあるノース・セーレム高校との国際交流を通じて、グローバル化に対応したコミュニケーション力を身に付け、川越や日本のことをきちんと伝えることのできる国際人を育てます。</li> <li>・本市唯一の市立高校として、異校種や家庭・地域との連携を図りながら、創立100周年に向けて、時代の要請と市民の期待に応える魅力ある学校づくりを進めます。</li> <li>・一人ひとりの希望する進路に向けた確かな学力・技能等を培い、人生や社会の未来を切り拓くことのできる力を育みます。</li> <li>・普通科と商業に関する学科（情報処理科・国際経済科）の3学科併置校としての特色を生かした教育活動の充実を図ります。</li> <li>・これまでの取組を継続し、部活動の活躍を通して学校の魅力を一層高めます。</li> <li>・多様な学びの機会を創造するため、市内4大学及び女子栄養大学との連携、地元企業や関係機関との連携を推進します。</li> <li>・市立川越高等学校のホームページをより充実させ、教育活動の内容や成果に関して適時に適切な情報を発信します。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科（普通科・情報処理科・国際経済科）35人の少人数学級編制を実施</li> <li>・普通科の生徒の大学・短大・専門学校等への進学率 89%</li> <li>・情報処理科、国際経済科の全商検定3種目以上1級合格者数 51名</li> <li>・部活動外部指導者を導入し部活動の充実</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月1日時点の県内中学3年生対象進路希望状況調査で、市立川越高校普通科を希望する倍率が6年連続県内1位となりました。</li> <li>・全商検定や日商検定の取得者が県内の商業系高校の中でトップクラスの実績を収めました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創立100周年に向け、時代の要請と市民の期待に応じた具体の目標設定が課題です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立100周年に向けて「川越市立川越高等学校長期的ビジョン」に係る方向性を、時代の要請と市民の期待に応える市立川越高等学校づくりに資するため、川越市立川越高等学校教育審議会を開催し検討します。</li> </ul>		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	②進路指導力向上のための教職員研修の充実	担当課	関連指標
		学校管理課・市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Society5.0時代に対応した教育を実施するため、全ての教員がICTを適切に活用できることを目指します。</li> <li>・ 教員を大学進学予備校や民間教育機関の研修等に参加させ、その成果を校内に普及させることで大学等への進学指導力の向上を目指します。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立高等学校教員進学指導力向上研修を活用した、民間教育機関の研修の受講 2名</li> <li>・ 教員を対象にGoogle for Education研修を実施 3回</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気通信大学、東京理科大学、立教大学、法政大学、中央大学等難関大学へ合格しました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒がより高い進路目標に挑戦するようになることが求められます。</li> <li>・ ICTの活用スキルや意識が教職員により異なります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進学指導力向上研修の活用を継続します。</li> <li>・ 教職員がICTを適切に活用できるよう、引き続き研修等を実施します。</li> </ul>		

細 施 策	③中学校・市立川越高等学校連携の推進	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立川越高等学校の取組を市立中学校に広く周知するために、引き続き研究委嘱校を設定し、支援していきます。</li> <li>・ 商業に関する学科との連携など、市立川越高等学校の特色を生かした連携方法について、研究していきます。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究委嘱校の福原中とのICTを活用したオンラインでの生徒間交流を実施</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究委嘱校との校種間連携を行いました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究委嘱校に限らず、希望するより多くの中学校との校種間連携が必要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンラインによる生徒間交流について市内中学生へ周知し、連携の拡大を目指します。</li> </ul>		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	④市立川越高等学校教育環境の整備・充実	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備面からも教育力の維持向上を目指し、より安全で快適な教育環境を整備するため、計画的に改修を進めます。</li> <li>情報活用能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、ICT環境を一層整備していきます。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1簿記実習室等の空調設備改修工事</li> <li>防球ネット改修工事</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「川越市立川越高等学校大規模改修方針」に基づき、計画的に改修工事を実施しています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営に影響がないよう改修工事を行う必要があります。</li> <li>学習者用コンピュータ1人1台の円滑な導入に向けた環境整備が課題です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営に支障が生じないよう計画的に改修工事を行います。</li> <li>学習者用コンピュータ1人1台について具体の整備を進めます。</li> </ul>		

【施策の柱】 (4)市立特別支援学校の充実

細 施 策	①市立特別支援学校の整備・充実	担当課	関連指標	
		市立特別支援学校	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立特別支援学校の教育活動が円滑に進められるようにするために、教育環境の整備・充実に向けた支援体制の充実を図ります。</li> <li>卒業後「ひとりだちする生徒」を目指し、基礎的な知識、理解の定着を図るとともに、個人及びグループで適切に作業に取り組める能力の育成を図ります。</li> <li>生徒一人ひとりに応じた進路指導、援助を計画的、組織的、継続的に推進します。</li> <li>卒業後の職場定着のために、卒業後3年間支援します。</li> <li>ICT機器に触れ、活用する力を育成します。</li> </ul>			
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科別の指導「国語」「数学」の習熟度別授業の実施</li> <li>産業現場等における実習（現場実習）、「職業」の計画的な実施</li> <li>卒業生アフターフォローの実施 企業等訪問回数 23回</li> <li>教育用情報端末の導入 55台</li> </ul>			
成果実績	項目名（単位）	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	保護者アンケートで「入学させてかなりよかった」「入学させてよかった」と答えた割合（%）	90.2	95.5	97.7
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別や少人数など、生徒の状況に合わせて指導形態を変えています。</li> <li>コロナ禍ではありましたが、計画的に職業に関わる作業体験、実習を行うことができました。</li> <li>卒業生の就職した企業を定期的に訪問しています。</li> <li>生徒1人につき1台の端末を導入し、授業等で活用しています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員用の端末が学年ごとに2台しかないため、端末の活用が活発になればなるほど、教材研究等に支障が出てきています。</li> </ul>			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究等に支障が出ないよう、教員間で効果的な端末利用を工夫するとともに、端末の台数を増やすことも検討します。</li> </ul>			

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (4)市立特別支援学校の充実

細 施 策	②市立特別支援学校のセンター的機能の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割を担えるよう支援体制の充実を図ります。</li> </ul>		
令和3年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターによる学校訪問での教育相談等 10件</li> <li>教頭による学校からの教育相談等対応 5件</li> <li>夏季休業中の市立特別支援学校職員による中学校訪問 22校(市立中学校全校)</li> <li>異校種体験受入 3名</li> <li>特別支援教育コーディネーター及び教頭が、市の研修会で講師として講義・演習を実施。</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒観察とは別の日にフィードバックを行うことで、きめ細やかな教育相談が実施できています。</li> <li>特別支援学校のコーディネーターは専任とはなっていないため、学校訪問等を行う時間が限られています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学校のコーディネーターは、同校のセンター的機能の中核を担うべき立場を求められるため、教育相談や特別支援教育に精通した人材の育成が必要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学校では、今後も、中学校訪問や異校種体験受入、研修会等への講師派遣などを継続します。</li> <li>特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを複数人指定し、管理職が相談内容等に応じてコーディネーター業務を振り分けることで、センター的機能の充実を図ります。</li> <li>外部のオンライン等の研修を活用し、コーディネーターの資質向上に取り組みます。</li> </ul>		